

令和5年度第3回  
射水市高齢者保健福祉・介護保険事業計画推進委員会会議録

1 日 時 令和5年11月14日（火）午後1時30分～午後3時00分

2 場 所 射水市役所（本庁舎）会議室302・303

3 出席者

(1) 推進委員会委員 13名

宮嶋会長、新鞍副会長、野澤委員、櫻田委員、野田委員、多比木委員、  
義本委員、笹本委員、紺谷委員、小林委員、寺林委員、篠田委員、二瀬委員

(2) 事務局 14名

小見福祉保健部長、轟福祉保健部次長、山口地域福祉課長、菓子介護保険課長、  
政岡保健センター所長、加治市民病院看護部長、竹島地域福祉課課長補佐、  
長谷川地域福祉課課長補佐、浅井地域福祉課地域ケア推進係長、田中介護保険  
課長補佐、坂井介護保険課介護保険管理係長、坂本保健センター健康増進係長、  
中波地域福祉課福祉政策係主査、熊藤介護保険課介護保険管理係主任

---

[会議次第]

事務局 会 長

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の素案について

4 その他

5 閉 会

[会議録]

<p>会 長</p>	<p>議題（１）高齢者保健福祉計画・第９期介護保険事業計画の素案について</p> <p>議題（１）について事務局から説明があった。素案について委員の皆さんからご質問ご意見等いただければと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>７６ページの「基本目標５ 介護サービス基盤の充実」では、「保険料についてはあまり高くないようにしてほしい」という意見が多くあったとのことだが、先ほどの説明では（保険料が）上がる見込みという説明だった。３期続けて上げてなかったこともあり個人的には分かる部分である。</p> <p>今、国では保険料の見直しなど言われているが、市としてどのように整合していくのか。まだ分からない段階かもしれないが、９期に入る前の大事な時期だと思うので、その辺について聞かせてほしい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>介護保険料については、現在、国の方でも増額が検討されているところであり、今般の物価高騰や介護職への処遇改善等を考えると上げざるを得ないと見込んでいる。</p> <p>第８期計画期間中は新型コロナの影響もあり、介護給付費が大きく支出されなかったことから、基金を積むことができた。基金の活用も含め、できるだけ上げないで済むようしっかりと推計を進める。</p>
<p>委 員</p>	<p>市民のためにもしっかりと推計してほしい。もう一点質問する。</p> <p>各種ボランティア団体や老人クラブの会員数の上昇を目標にしているが、もともとの数字が低いのではないかと。老人クラブや地域ふれあいサロンなど各種団体があるが、市としてどのように考え、どのように取り組むのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>５９ページの成果指標では、ボランティアグループは１６．０％、老人クラブは１８．８％となっているが、これは今回のアンケート調査の結果である。目標値の２０％以上については、今回の数字が前回の調査の結果を下回っているため、少なくとも前回調査の数値まで回復させたいと思い設定した。</p> <p>市としてどのように取り組むのかについては、ボランティア団体の方々の話では、「高齢化の進行」や「参加者数の伸び悩み」があると聞く。老人クラブも同じだが、まずは「その活動の良さ」というものをPRすることが大事と考えている。それがすぐ参加割合の上昇に繋がると</p>

委員	<p>いうわけではないが、そこから始めたいと考えている。</p> <p>私はボランティアグループ代表、小杉ボランティア連絡協議会会長として出席しているのだが、ボランティアはやはり楽しくないといけないと思う。「楽しい」ということを、市はしっかりとボランティア団体の役員に伝えてほしい。射水市ボランティア連絡協議会、5地区のボランティア組織があるが、(地区ごとに)温度差があり、その地区だけではできないこともある。市は地区ごとの現状を把握し、気持ちよく活動できるような状況にする役割も行うべきと思うがいかがか。</p>
事務局	<p>そこまで状況把握していないので、また話を聞かせていただきたい。</p>
会長	<p>介護報酬の話がでた。2024年は介護報酬だけでなく、医療報酬と障害福祉サービスの報酬改定もあるため「トリプル改定」と言われており、どのような負担になるのか心配する部分だと思う。</p> <p>(被保険者が)保険料を支払った上で、それに見合うサービスが提供されている、「これだったら保険料が上がってもいいんじゃないか」と思えるようなサービスや取組を、しっかりと見えるような形でPRすれば、「本当は上げたくないけれども上げざるを得ない」と理解いただけるものと思う。</p> <p>ボランティアの推進は行政だけではなく社会福祉協議会の中心的な事業だが、どのように推進していくのか。</p>
委員	<p>委員、会長から発言のあった「ボランティアの活性化」については、新型コロナの影響で、ここ3～4年間は十分な活動ができず会員も集まることができなかつた。また訪問等の対人サービスも行えず正直言って停滞していた。</p> <p>今後、来年の予定、事業計画も考えているところであるが、「ボランティアの活性化」が「地域の活性化」にもつながることから、社協活動、地区社協活動等にボランティアが参加できるように色々と考えていきたいと思う。</p>
委員	<p>6ページの国の指針案「介護現場の生産性向上の推進」について、8期計画の時からモヤっとしていた。調べると「普段何気なくしている業務の無駄に気づき、もっと効率よくできる方法を見つけ出して業務を改善する」と書いてあったのだがこれで合っているか。</p>
事務局	<p>委員の言われるとおりである。9期計画では「生産性向上」の部分を</p>

<p>委員</p>	<p>I C T、A I、介護ロボット等を活用し進めたいと考えている。</p> <p>「生産性向上」と言うが、無駄というのは実際どの部分のことなのか、そしてそれをどう効率的にやるのか。医療なら「病気を治す」「怪我を治す」といった「治療」を効率良く行うことは必要と思うが介護は生活を支えている。ただ効率良くどンドンやればいいものではない。</p> <p>業務として「10人のオムツ交換を何分でやりなさい」と言われた時、できる人もいると思うが効率良くできない状況もある。どういった業務を無駄と判断し、どうやって効率良くやるという考えなのか。</p> <p>この部分が8期計画の時からモヤモヤしていて、介護としての大事な部分が置いていかれる危険性があるのではないかと考えている。効率良く業務をこなすのはいいが、それだけで本当に介護として成り立つのかと思う。その辺りの指導・監督をしっかりと行わないと、大事なものを疎かにして、ただ単に「10人のオムツ交換をさっとできる職員」だけが育つとか、「広い場所に何十人も集めて怪我無く帰宅してもらえば良い」という施設が増える危険性があると感じている。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員の質問に対し、先ほど「効率化を介護ロボット、I C T等を活用しながら進めたい」と説明させていただいた。ご心配されるとおり、介護サービスを提供していくうえで、人との触れ合い、交流は必ず必要となる部分である。介護現場は常に人材不足であり効率化は欠かせないが、人と人が触れ合う業務についても「資格を持った介護福祉士でないとできない業務」と「資格を持たなくてもできるボランティアがやる業務」といった分担もある。それらも含めて業務の効率化を行い、人と人が交流できる、温かいサービスを提供できる体制を第9期計画においても進めたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>生産性の向上は、単純に業務の効率化という意味ではなく、介護福祉士しかできない部分をしっかりと行うために、それ以外の部分をI C T、介護ロボット、介護助手等を活用することで、個別介護をより充実させていくためのものである。</p> <p>ただ、言葉の意味を一般の方は違う捉え方をされる場合もあるので、しっかりと説明し取り組んでもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>この計画の他にも様々な計画があるが、例えば社会福祉協議会、支え合いネットワーク、民生委員、地域振興会の役割について、どの計画にも同じような事が掲載されているが、このあたり各団体との関係性、情報交換、市役所内の各課との連携体制について聞かせてほしい。あちこ</p>

事務局	<p>ちの計画で同じ内容の記載だと無駄な気がする。</p> <p>まず市の関係課との連携については、4ページに他計画との関連を掲載している。行政が施策を行う際には必ず計画に基づいて進めていくことになるが、この計画は上位計画である「第2次射水市地域福祉計画・第3次地域福祉活動計画」と関連しており、そちらでも地域振興会等の役割が掲載されている。福祉部門以外の計画についても、この計画と関連する部分について、関連各課との連絡調整を行いながらそれぞれの計画との整合性を図っている。</p>
委員	<p>それぞれの計画には同じような内容・役割で掲載されていると思うが、関係課との協議はどんな形で進められているのか。定期的に会議を行っているのか。</p>
事務局	<p>令和6年度から実施が決定している「重層的支援体制整備事業」は、市民のニーズが複雑化多様化し、福祉分野だけでは対応できない状況になっていることから、例えば住宅関係や生活環境など、福祉分野以外の課とも連携する事業である。</p> <p>今年度は準備事業を進めているが、関係課の課長が参加する「共生社会推進会議」を年2回、具体的な事業を話し合うための関係係長が参加する「重層的支援体制整備事業連絡会議」を月1回開催している。</p> <p>また、庁内関係課以外にも地域包括支援センターや地域活動支援センターなどの関係機関が参加する会議を月1回、メンバーを変えながら開催し、令和6年度の実施に向けて進めている。</p> <p>地域支え合いネットワーク事業については、生活支援・介護予防サービス推進協議会として、地域振興会の連絡調整を行っている市民活躍・文化課も参加し情報を共有しているところである。在宅医療・介護連携については介護保険課や保険年金課、医療の関係だと市民病院からも参加し進めている状況である。</p> <p>各関係課が情報共有を図りながら方向性を決め事業を進めている。それぞれの課が各計画の中に落とし込んでおり、どの計画にも出てくるとのことであるが、それぞれ連携して進めている。</p>
会長	<p>地域福祉計画は高齢者保険福祉計画も含めてはいるが、高齢者に関することをより具体的に書いてあるのが高齢者保健福祉計画である。市民目線で見るとあっちにもこっちにも同じような内容が書かれていて、一方は介護保険課、一方は地域福祉課が担当している。行政で連携が取れているのだろうかという質問だったが、その辺は丁寧に説明すれば市民</p>

<p>委員</p>	<p>も理解されると思う。</p> <p>「基本目標4 支え合いみんながつながる社会の推進」在宅医療と介護連携の推進の中で、69ページの在宅医療と介護に共通する4つの場面における目指すべき姿の実現に向けてよく検討されていると思った。</p> <p>医師会でよく話題にするが、医療は一つの市だけでは完結しないので「医療圏」という考え方をする。射水市だと高岡医療圏になる。医療圏の中での役割分担が必要になってくるので、今後はこの計画でも医療圏との協力が必要になってくると思った。</p> <p>他職種連携支援システムは、他市と比べると射水市が一步リードしている。他の市にも自慢できるような形で活用しているが、県内のそれぞれの市町村とシステムが連携していない。射水市の方は射水市だけで医療、介護を受けているわけではないので、将来的にはその辺の連携も課題になると思う。簡単ではないと思うがICTツールを医療圏内で共通な設定にする必要があると思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>29ページに在宅介護実態調査の調査結果の概要と課題があるが、この中に、現在の生活に必要な支援サービスとして、単身世帯では「移送サービス」「配食」「買い物」「ゴミ出し」「掃除」「洗濯」等について、地域住民によるインフォーマルな支援体制の充実を図る必要があるとコメントされている。何か具体的な案があるのかというのが質問の1点目。</p> <p>65ページに高齢者の見守り活動の推進として、「緊急通報装置貸与事業」があるが、社会福祉協議会で地域を回っていると、支援を拒否する方が増えていると感じる。この方達をどうするかがこれからの課題だと思うが、この緊急通報システムの貸し出しを簡単にできれば良いと考える。どうしても所得制限があり難しいと思うが、何もしないと死後一カ月経って発見されるというようなことがこれから出てくると思う。それでは市のイメージダウンになる。具体的な話がこの計画に馴染むかどうか分からないが、考える必要があると思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>1点目の「配食」「買い物」「ゴミ出し」「掃除」等の地域住民によるインフォーマルな支え合い体制については、現在、市で推進している地域支え合いネットワーク事業の中ですでに構築している地域がある。その地域の活動内容を第1層、第2層生活支援コーディネーターが各地域に紹介し、地域の事情もあると思うが、仕組み作りに取り組んでもらえるよう情報共有をしている。少しずつだが、地域には仕組みが出来てきていると認識をしている。今後も仕組みづくりへの支援を進めていく。</p> <p>もう1点目の緊急通報装置について、現在は所得制限を設けたうえで</p>

	<p>設置している。委員が言われるケースの場合の対応については今後検討を進めていく。</p>
会 長	<p>29ページの最後の質問はケアネット事業そのものだと思う。社会福祉協議会が積極的に事業を進め、こういった意見が出ないようにしないといけない。</p>
委 員	<p>現実として、先ほど別の委員の発言にもあったように、二本立て、三本立ての施策の実施を地区に要求され苦勞している。地域の声として、あえて質問させていただいた。</p>
会 長	<p>社会福祉協議会が県内全体で行っている住民主体のケアネット事業、平成15年から実施されもう20年近くになる事業である。行政と社会福祉協議会で情報を共有し、既にある物を別に作って混乱することの無いよう、しっかり整理して進めてほしい。</p>
委 員	<p>90ページ、「施策3 事務作業効率化の支援」の電子申請届出システムについて、昨今、居宅介護支援事業所ではケアプランデータ連携システムの導入が言われているが、なかなか伸展していない状況である。導入について、市ではどういうイメージなのか教えてほしい。</p>
事 務 局	<p>計画に示してあるとおり、国が定める標準様式や電子申請届出システム等あるが、これらを実際に活用されるのはケアマネジャーや事業所の方々である。導入を進める際にはご意見等も聞きながら一緒に進めてまいりたい。</p>
委 員	<p>59ページに「老人クラブ活動等への参加を促進する」とあるが、地域振興会や各団体は後継者、なり手不足で困っている。例えば老人クラブ活動への参加の促進とは、どうすればいいのか教えてほしい。ある地域では老人クラブの解散ということも発生してきている。何かいい方法はないか。</p>
会 長	<p>なかなか難しい。自分も小矢部市の小さい町内にいるが、50代になっても体育協会で世話している。普通、体育協会は30代40代が中心だが、少子高齢化や核家族化の影響で年齢的に合わない人が役員をやっている実態である。結局それ変わる若い人がそこにいない。射水市だけの問題ではなく県内全域の問題である。行政で他の市町村の良い取組があれば紹介してほしい。</p>

委員	<p>33ページ、独り暮らし高齢者の介護について、「家族が介護する」とか、「長男だから責任がある」といった感性が廃れてきていると感じる。私は民生委員の時に一人暮らし高齢者のお世話をしたことがあるが、救急車で運ばれても家族と連絡が取れないことがある。「いのちのバトン」には連絡先が書いてあるが実際は機能していない。それを市から関係者に強く言ってほしい。民生委員をしていた4年間で2回もあった。今日の会議内容からは外れてしまうが実態はそうである。</p>
会長	<p>いろいろな家庭事情があると思う。「いのちのバトン」というシステムは素晴らしいが、実効的になっていないことがある。しっかりと検討してやっていただきたいというご意見だった。</p>
委員	<p>「基本目標2 社会参加の推進と生きがいの創出について」とある。60ページ、「豊かな経験や高い能力を活かす雇用の推進」について、人手不足等雇用に関する課題が事業所から商工会に多く寄せられる。もちろん若者もいないが、定年年齢が65歳から定年なしに就業規則の変更する事業所が増えている。中には外国人の労働者を雇用する事業所も増えてきている。</p> <p>豊富な知識や技術を持った高齢者がいるならば、情報交換、連携が上手くいけば事業所にとっても働く側にとっても大変よい関係になると思うが、ハローワークで求職活動している高齢者も多くないし、事業所もそういった方を求人していないのが現状である。お互いのニーズを把握し、商工団体がうまくマッチングできる対策ができれば良いと感じた。</p>
委員	<p>審議する内容が幅広い。「こういう論点があるからそれに対する意見を委員からもらいたい」という進め方の方が充実したのではないかと。</p> <p>8期と9期での主な変更点を示し、新たに盛り込んだ事業、8期では効果が見られず縮小した事業、そんな議論があっても良かったと思う。</p> <p>9期の大きな特徴、市が一番力を入れているところだけを聞かせてほしい。</p>
事務局	<p>素案の5ページから7ページで第9期計画における改正点や、様々な見直しについて掲載している。サービス基盤の計画的な整備とともに、地域包括ケアシステムをさらに推進し、総合事業の充実化を集中的に取り組みとしている。先ほど会長が「ケアネット事業」と「地域支え合いネットワーク事業」は重なるのではないかと発言があった。ケアネットではこれまで「向こう三軒両隣」で支援するチームを民生委員と一緒に</p>

	<p>作ってきた。それができる地域はそれで良いが、空き家が増え、民生委員の負担が大きくなり、それが継続できなくなってきているからこそ、総合事業で支え合いネットワーク事業を作り、地域で、例えば買い物や、電球交換は1回くらいというようなシステムを作っている地域もある状況である。それらも含めて、包括ケアシステムでは総合事業の充実に力を入れて取り組んでいくということである。</p> <p>また、認知症高齢者の家族やヤングケアラーへの支援について、認知症高齢者は85歳以上高齢者の増加にしたがって増えていくという見込みであり、そこへの支援が必要になると考えている。</p> <p>6ページでは、介護人材の確保について記載があり、今後は外国人材の確保にもしっかりと取り組まないといけないと思っている。</p> <p>7ページの重層的支援体制整備については、複数課題があったとしても支援の層を厚くし、層の隙間に沈んでいくことがないように救えるものを多く救っていきたいと考えている。</p> <p>9期計画の内容については、5～7ページにあるものをしっかりと取り組んでいきたいと思っている。</p>
会 長	5～7ページが9期の重点項目であり非常に多いことが分かる。
委 員	できるだけカタカナ、アルファベット、略して書かないようにお願いしたい。
委 員	<p>今の質問に関連するが用語集があれば安心する。計画自体は非常に分かりやすく落とし込んである。</p> <p>ボランティアの人材が集まりにくく大変だと思うが、70ページを見ると認知症サポーター養成講座の参加者数が倍増するような計画となっている。どうやって目標を実現させるのか。ボランティア活動の参考になると思うので教えてほしい。</p>
事 務 局	<p>認知症サポーター養成講座について、今年度は70ページに記載のとおり700人程度の参加者を見込んでいる。多い時で大体1400人くらい受講者がいたこともあるのでそれを目指したい。コロナ禍で開催できていなかったのもので、小中学生や若い世代に受講して欲しい気持ちを込めて見込んでいる。</p>
会 長	<p>受講後に、ボランティアや地域活動につながっていく部分なので、しっかりと取り組んでほしい。時間を過ぎてたくさんご意見ご質問をいただいた。副会長にまとめてもらいたい。</p>

副 会 長	<p>9期計画に向けて、膨大な資料に基づいて施策を作成されたと思う。それぞれの施策にニーズ調査を踏まえた成果指標が書かれており、根拠が分かりやすくなっている。</p> <p>会長挨拶の中で「ビジネスケアラー」についての発言があったが、今回介護のための離職有無について、76ページ「基本目標5 介護サービス基盤の充実」では、介護のための離職の有無の目標値が0%となっている。これは基本目標5の施策だけで介護離職を0%にするという意味なのか、介護離職を0%にするためには基本目標5だけでなく計画全体を網羅して達成するという意味なのか教えてほしい。</p>
事 務 局	<p>目標0パーセントは、サービス基盤の充実だけで達成できるものではなく、計画全体の中で達成を目指していくものである。達成目標が0%というのは高すぎるかもしれないが、これを目指していきたい。</p>
会 長	<p>事務局には、本日の質問や意見を反映して修正していただきたい。その他について、事務局から何かあるか。</p>
事 務 局	<p>本日いただいたご意見を取りまとめ、12月にパブリックコメントを実施する予定である。また次回（第4回）の委員会は、令和5年1月下旬から2月上旬に、パブリックコメントの結果報告と介護保険料について検討していただく予定である。</p>
会 長	<p>これをもって閉会させていただく。</p>